

令和元年度 第3回

茨木市居住施策推進委員会

— 会議録 —

会 議 録

(敬称略)

会議の名称	令和元年度第3回茨木市居住施策推進委員会
開催日時	令和元年12月26日(木) 午前10時00分開会・午前11時30分閉会
開催場所	市役所南館3階防災会議室
委員長	檜谷 美恵子
出席者	〔委員〕 檜谷 美恵子、吉田 友彦、鈴木 依子、白倉 典武 <以上学識経験者等>  岡田 藤男、榊野 照子、室 節子 <以上関係団体推薦>  板倉 幸司、與那城 千恵 <以上市民>  (以上、計9名)
欠席者	上崎 哉
事務局	岸田都市整備部長、中野居住政策課長、 谷本居住政策課課長代理、谷山居住政策課政策係長
議題(案件)	・居住マスタープラン(素案)について
傍聴者	1名

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
○事務局	ただ今から令和元年度第3回茨木市居住施策推進委員会を開会する。 開会にあたり、岸田都市整備部長からあいさつを申し上げる。
○岸田部長	(あいさつ)
○事務局	本日の出席状況は、委員総数10名のところ、出席者は9名となっている。また、本日は1名の方が傍聴されている。 それでは、本委員会の進行を檜谷委員長にお願いする。
○委員長	委員長を務めさせていただくので、協力を賜りたい。 それでは、次第に沿って議事を進める。 「居住マスタープラン(素案)について」事務局から説明をお願いします。  (事務局説明) 居住マスタープラン(素案)について ・「【資料1】茨木市居住マスタープラン【素案】の序章～第2章」、 「【資料2】茨木市居住マスタープラン策定に向けたスケジュール」についての説明
○委員長	事務局からの説明は以上である。説明に対する意見等はあるか。 私からの意見だが、P1の「計画策定の背景と目的」では居住政策が必要な背景として災害の視点を加えてもいいと感じた。ご検討いただければ。
○事務局	本計画は本来であれば昨年度策定する予定であった。地震災害についての検証も含めて1年策定を遅らせたこともあるので、記載する方向で検討する。
○委員長	P1の「計画策定の背景と目的」に「望ましい住まいのあり方について検討を行い」とあるが、実際には住まいの課題と施策を示す計画になっていると感じるので、修正してはどうか。
○吉田委員	P16に茨木市の建築物の建築時期について記載があり、22.1%が昭和55年以前で建築されている。一方でP39では、地震で被害のあった住宅の建築時期について記載があり、昭和56年5月以前で46.2%ある。旧耐震の建築物が総数に対して被害が多いことがわかるが、必要であれば追記してはどうか。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
○委員長	古い住宅ほど多くの被害を受けていることについては記載することが望ましいと思う。
○岡田委員	統計データの表現についてだが、P16では、「昭和55年以前」、「昭和56年以降」の統計になっているが、正確にはP39のように「昭和56年5月以前」、「昭和56年6月以降」で記載するべきではないか。
○委員長	P16は住宅・土地統計調査から引用しており、そのような聞き方になっている。少し補足していただければいいかもしれない。
○板倉委員	P30の「居住環境に対する取り組みが必要な分野」のアンケートにおいて、「街灯や防犯カメラ等の防犯対策」が最も多いが、このあたりを課題として捉え、施策を打ち出していく必要があるのではないか。
○事務局	P46に課題として盛り込んでおり、P61に施策として記載している。
○委員長	「居住マスタープラン（素案）について」の続きについて事務局から説明をお願いします。
○事務局	(事務局説明) 居住マスタープラン（素案）について ・「【資料1】茨木市居住マスタープラン【素案】の第3章～第5章」についての説明
○委員長	事務局からの説明は以上である。説明に対する意見等はあるか。
○白倉委員	P68第5章のテーマ2について、居住環境を評価する指標として都市公園の1人当たりの面積をあげている場合がある。そのあたりの議論はされているのか。 また、防災や減災のために近隣との関わりが大切だと言うことがよく言われるが、P69の「市民の役割」の中に書き加えてはどうか。
○事務局	居住政策の範囲で記載について検討する。
○委員長	指標について、茨木市の他計画と重複しているものはあるか。
○事務局	テーマ2の「居住誘導区域の人口密度」、「北部地域における交流人

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
○板倉委員	<p>口」については他計画の指標から設定している。</p> <p>テーマ1の「若年・子育て世代の転出入」の指標について、具体的にどのような数値で確認するのか教えてほしい。基準値が「転入超過」だけではイメージがわからないので、現状の数値を記載すべきではないか。</p> <p>また、目標値で「増加」と記載されている指標があるが、具体的な数値にすることは出来ないか。</p>
○事務局	<p>「若年・子育て世代の転出入」は0歳から39歳までの人口の転出と転入の差を指標として設定している。現状値については、記載する方向で検討する。</p> <p>また、目標値については、具体的に示すのが難しい指標を「増加」として設定している。</p>
○委員長	<p>指標は絶対に達成しなければいけないわけではない。できない場合は、その理由などを考えるきっかけとなる。</p> <p>他計画と重複している指標は、居住政策と関係の深い指標であると思うが、「北部地域における交流人口」については、住宅と結びつきにくいイメージを感じる。</p>
○事務局	<p>北部地域は市街化調整区域であり、市の人口の1%以下である。このような状況の中で、まずは北部地域を訪れ、交流する人口を増やしていこうという方向で取り組みを進めている。それが北部地域の住まいの維持につながると考えている。</p>
○委員長	<p>現状の人口維持を目標にすることが難しいと言う認識を持っていると言うことで理解した。</p>
○白倉委員	<p>所有者不明の空家等の増加が昨今の話題になっていると思うが、空家率については設定するのか。</p>
○事務局	<p>昨年度の地震などで突発的に空家が増加した例もあり、指標として定めにくいと判断し設定していない。空家等対策計画を策定しており、計画に基づき空家対策を進めている。</p>
○吉田委員	<p>「茨木市空家等対策協議会」において、空家等対策計画の策定について議論した際は、空家率を定めることによりその指標だけがひとり歩きしてしまう危惧などから指標を定めなかった。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	P63の具体的施策の取組に、リバースモーゲージがあげられているが、施策の対象はイメージしているのか。
○事務局	自宅を担保にして、自宅に住み続けながら生活資金や修理費用などの融資を受ける主に高齢者向けの制度である。自身の住宅に住み続けてもらうための選択肢として周知を行っていく予定である。
○岡田委員	テーマ3の「災害時に連携できる住宅関連団体」の指標について、茨木には不動産団体が2団体あり、前回の災害時は支援方法について不動産団体が模索していたと聞く。市と連携すれば緊急時スムーズに支援が行えると思うので、住宅関連事業者だけでなく、不動産関係の団体とも連携してほしい。
○委員長	団体の枠を広げてはどうかという質疑であるので検討願いたい。 具体的施策の取組の中には、市だけでなく、国や府の取り組みを記載しているが、それを市民に伝える手段はどう考えているか。
○事務局	現状は、ホームページ等で紹介している。住宅管理ハンドブックへの掲載や、セミナーや出前講座等でも啓発していきたいと考えている。
○委員長	啓発についても評価指標を検討してみてはどうか。ホームページアクセス数などを指標にしている行政もある。
○鈴木委員	委員長の意見に賛成である。例えば「空き家バンク制度の活用」があるが、まずは普及啓発や情報提供を行っていくことが大切だと感じる。情報発信についてどこかで記載があれば良い。
○事務局	情報周知に関しては市も苦慮しているところであり、周知方法については、今後検討が必要であると考えている。
○境田委員	全体的な話になるが、序章～第4章と比べて、第5章はボリュームが少ない印象を受ける。
○委員長	庁内の連携に関するところなどは重要な項目だと思うので、もう少し言葉を増やしても良いかもしれない。
○與那城委員	P43の課題に「地域で集まる場づくり」が必要と記載があるが、場づくりの回数などを指標として設定することは難しいのか。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
○委員長	前回の委員会でもコミュニティという言葉だけで実践的なことが出来ていない実態もあるとの意見もあった。そのあたりも含め事務局で検討してもらえればと思う。他に意見等はあるか。
○梶野委員	見やすくまとめられていると思う。
○白倉委員	地区防災計画を策定する際に、地域の住民とともにまちの防災について学ぶ機会を設けている行政もあると聞く。評価指標として設定すべきかわからないが、検討してもらえれば良い。
○事務局	P 1 において「居住環境」を定義しているが、生活圏内という言葉に非常に広いイメージがあるので、違和感がある。
○吉田委員	小学校区を単位にする近隣住区という考え方がある。400 メートルの半径の中で、歩いて生活が出来るというものである。
○委員長	具体的な圏域を示す意図はあるか。
○事務局	具体的な圏域までは示さない。
○委員長	生活圏という言葉は人によって範囲が異なるので違う言葉のほうが良い。
○吉田委員	周辺生活環境という言葉が良いのではないか。
○事務局	周辺生活環境に修正する。
○岡田委員	P 17 において誘導居住面積水準の達成率が低い傾向にあるが、茨木の住宅では無理のある水準だと感じる。きちんと良いまちづくりは出来ていると思っているのだが、見せ方を改善できないか。
○事務局	最低居住面積水準について、他市と比較し追記する。
○白倉委員	一部の建築設備等が居住環境に悪影響を与えていると記載されている記事を見る。その件についてもパブリックコメントで意見が出てくるかもしれない。

議 事 の 経 過

発 言 者

議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項

○事務局

次回委員会は、3月を予定している。開催日程については後日調整する。

○委員長

本日の委員会はこれで終了する。